

# 中国遼寧省瀋陽での生活



前列左から2番目が執筆者

## 横地 英樹 (よこち ひでき)

前・在瀋陽日本国総領事館領事  
国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部苫小牧道路事務所第1工務課事業専門官

1999年北海道開発局入局、主に道路部門で勤務。2019年3月から2022年3月まで在瀋陽日本国総領事館に勤務し、広報・文化等を担当。2022年4月より現職。

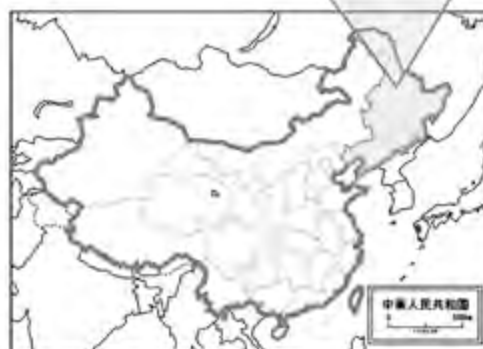
### はじめに

私は2019年3月から2022年3月までの3年間、中華人民共和国遼寧省瀋陽市にある在瀋陽日本国総領事館に勤務していました。瀋陽市は成田空港から3時間半のフライトで行くことができ、こうした地理的要因や歴史的背景から日本との人的交流が盛んな都市です。私が当地で担当していた仕事や生活について簡単ではありますが紹介させていただきます。

### 東北3省の概要

私の勤務していた在瀋陽日本国総領事館は、東北3省（遼寧省、吉林省及び黒龍江省）を管轄していますが、総領事館が所在する瀋陽市が満州事変の勃発した奉天の現在の名称であるといえ、皆様にも見当が付くのではないかと思います。

東北3省とはその名の通り、中国の東北部に位置し、面積は日本の約2倍で、人口は日本とほぼ同じ規模で、気候は、真夏の最高気温は30℃を超え、冬季は降雪量も少なく、厳寒期は-30℃を下回る日もあり、比較的



中国東北3省位置図（一部、在瀋陽日本国総領事館HPより抜粋）

北海道に似ております。また、北海道との関係も深く、北海道と黒龍江省、札幌市と瀋陽市、千歳市と吉林省長春市、旭川市とハルビン市などが友好都市の提携を締結しており、人的交流が盛んに行われており、東北3省の人々の日本に対する関心は極めて高く、大学や高校等で日本語を学習する学生は約20万人と中国全体（約100万人）で日本語を学習する学生の約2割を占めるほど日本語学習熱は中国随一です。

東北3省には在留邦人約6,500人が滞在しており、日系企業約2,300社が進出しており、私が生活していた瀋陽市にも皆様にも馴染みがあるローソンやユニクロ、吉野家、すき家、牛角などが進出しています。

### 在外公館の仕事

在外公館は外国と外交を行う上で重要な拠点で、世界各地に大使館、総領事館等があります。大使館は基本的に各国の首都に置かれ、その国に対し日本を代表するもので、相手国政府との交渉や連絡、政治、経済その他の情報収集、分析等を行っており、私の勤務していた総領事館は、世界の主要な都市に置かれ、その地方の在留邦人の保護、政治・経済その他情報の収集（駐在国地方政府との交流、日系企業や現地企業との情報交換等）、駐在国国民への訪日査証（ビザ）の発給、日本を正しく理解してもらうための広報文化活動などの仕事を行っています。

私は広報・文化を担当し、日本を正しく理解してもらうため、総領事館主催の文化事業（イベント）の開催や広報活動、館内に学生等を招いての日本紹介や日本留学のサポート、当地地方政府等が主催するイベントへの参加等に関する仕事を行いました。

広報・文化活動は、広報や文化交流を通じて対日理解の促進や親日派・知日派の発掘のためのツールとして重要視されています。

このような広報・文化イベントは当地の地方政府や大学などから協力を得て実施することが多いため、日中関係が良好である時はイベントがスムーズに実施

されますが、私が勤務した3年間の内、2年間はコロナ禍であったため対面でのイベント開催にとっても苦慮しました。その中で実施した文化イベント等をいくつか紹介いたします。

### 第12回中国・北東アジア博覧会日本館出展と日本華道芸術文化交流会

吉林省長春市の長春国際会議展示センターにおいて「相互協力の増進、北東アジアの美しい新未来の開拓」をテーマに、第12回中国・北東アジア博覧会が開催され、同博覧会に日本館の出展及び日本華道芸術交流会を開催しました。同博覧会には約13万人を超える入場者があり、開幕式に先立ち、日本館へ胡春華・中国國務院副総理、中国共産党吉林省委書記をはじめ、中国政府、吉林省の指導者が来訪されました。

また、在瀋陽日本国総領事館と長春市人民政府外事弁公室との共催で「日本華道芸術文化交流会」を開催しました。同交流会では小原流瀋陽盛京学会のいけ花教授を講師としてお招きし、華道の講演・実演を行い、



中国・北東アジア博覧会



中国・北東アジア博覧会

その後、日本館来館者の方に華道を体験していただきました。また、博覧会期間中、日本館では8つの自治体、7つの企業・団体と共に、日本製品や日本各地の魅力を紹介しました。

### 総領事公邸料理人による日本料理講座

日本料理の魅力を発信するため、在瀋陽日本国総領事館と遼寧省人民政府外事弁公室との共催で総領事公邸料理人による日本料理講座を瀋陽市内の料理専門学校の学生や一般公募参加者等を対象に開催し、約170名が参加しました。冒頭領事館より2013年にユネスコ無形文化遺産に認定登録された「和食；日本人の伝統的な食文化」の特色を紹介し、2018年に外務大臣表彰（優秀公邸料理長）を受賞した総領事公邸料理人が日本料理について説明し、天ぷらや、煮物、巻き寿司の実演講義を行い、最後に総領事公邸料理人の指導で参加者に巻き寿司の実習体験をしてもらいました。



公邸料理人による日本料理講座



公邸料理人による日本料理講座

### 日本伝統武道空手レクデモ

2020東京オリンピックでも正式種目となった空手をテーマに、一般社団法人国際空手道連盟ワールド極真会館中国総本部から主席師範を講師としてお招きし、日本伝統武道空手レクデモを瀋陽市内の体育大学で開催しました。空手の歴史や、礼儀作法などを紹介し、空手の「形」と「組手」の実演、参加学生と一緒に空手の基本動作などの実技体験などを実施しました。



日本伝統武道空手レクデモ



日本伝統武道空手レクデモ

### 中朝国境

私が生活していた遼寧省の省都である瀋陽市は北京、大連、長春、ハルビンなどの諸都市を結ぶ鉄道と高速道路網の中心にあるほか、朝鮮半島とロシアやモンゴルを結ぶ鉄道の中間地点に位置する交通の要衝です。



中朝国境（鴨綠江断橋）※対岸が北朝鮮



中朝国境（鴨綠江断橋）

そのようなこともあり、大連や長春、ハルビンに頻繁に行きましたが、特に印象に残ったのは、朝鮮半島と近接する遼寧省<sup>たんとう</sup>丹東市です。

丹東市は遼寧省東部に位置し、朝鮮民主主義人民共和国との国境にある都市です。

写真の手前側が中国で対岸が北朝鮮です。

左側の橋梁は中国と北朝鮮を結ぶ橋梁（「中朝友誼<sup>きょうりゅう</sup>橋」）と呼ばれています）で、80年前の1943年に完成し、現在も中朝国境を行き来できます（北朝鮮は一時新型コロナウイルス感染症の国内流入防止のため閉鎖しましたが、現在は再開したようです）。

写真中央の橋梁が鴨綠江断橋<sup>おうりょくこうだんきょう</sup>です。もう1枚はその鴨綠江断橋を遊覧船から撮影した写真です。1911年に

完成した日本統治時代に掛けられ橋梁で、1950年朝鮮戦争でアメリカ軍により北朝鮮側を破壊されました。

この橋梁ですが、中国重点文物保護單位に指定され遊歩道が整備されています。

### 瀋陽での生活（中国文化）

一番驚いたことは、日本よりキャッシュレス化が進んでいることです。

中国ではLINEは使えませんが、中国版LINEであるWeChatと言うものがあり、これに銀行口座を紐付けすることにより、買い物時や、タクシーでの支払い、お金のやりとり等が出来ますので、どこに行くにもスマホだけあれば財布を持ち歩く必要がありませんでしたし、キャッシュレス化が進み、現金を受け付けない店もありました（日本帰国後も買い物する際度々会計時に財布がないことに気づき、自宅へ財布を取りに戻ることがあります…）。

食事ですが中華料理は油が多く、胃もたれがするので好きではありませんでしたが、飲み物は美味しかったです。中国東北地方のお酒と言えば何と言っても「白酒（バイジュウ）」です。白酒は無色透明な蒸留酒の一種で、アルコール度数が40～55度で地域によって沢山の銘柄があります。特筆すべきは「干杯（カンペイ）」という掛け声で一気飲みする習慣が中国東北地方にあることです。こうしてお互いで飲み交わすことにより相手に認められ、仕事や人間関係が円滑に進みます（実際に円滑に進みました）。

### おわりに

中国瀋陽で過ごした3年間は新型コロナウイルス感染症の影響等で仕事や私生活において苦慮しましたが、上司や同僚、現地職員の助けを得て、とても有意義で貴重な3年間を過ごせました。政治的な問題による両国政府の対立は解決が難しいですが、人的往来が再開し、民間同士の交流が早く再開されることを切に願います。